

7. ナスの半促成栽培における省力的側枝管理法（技術）			
[要約]			
ナスの半促成栽培において、側枝の <u>整芽</u> を省略して <u>摘心</u> のみ行う方法は、品質はやや低下するが、収量は慣行法と同等である。この方法では正常果 1 果を得るのに要する整芽・摘心と収穫の合計時間は慣行の 6 割に減少する。			
研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0277

[背景・ねらい]

冬春ナス生産では栽培中・後期に外観の優れたものを多収穫するための側枝管理法として、側枝の第 1 花房直上葉で摘心し、基部の腋芽 1 つを残して整芽する方法が行われている。夏秋ナス生産でも有効な方法であり、多くの生産者が採用しているが、冬春ナスほど外観の優れたものが高く評価されていない。一方で、その労力が規模拡大の制限要因になっている。そこで、夏秋ナスの長期どり作型である半促成栽培での省力的で効率の良い側枝管理法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 整芽・摘心をした慣行区は、整芽・摘心に 10 a 換算で 671 時間要したが、整芽を省略して摘心のみを行った省力 b 区は約 1/3 になった（表 1）。
2. 正常果 1 果を得るのに要した整芽・摘心と収穫の合計時間は、最も短かった省力 c 区に比べて、慣行区は 2.5 倍要したが、省力 b 区は 1.5 倍であった（表 1）。
3. 正常果収量は、1 側枝 2 芽残し前半 2 果どり後半 1 果どりで整芽・摘心を省略した省力 c 区が最も多かったが、上物収量が少なく、正常果率も 9 月以降他の区に比べて低下した。省力 b 区及び慣行区の正常果収量は同等で、省力 c 区に次いで多かった（表 2、図 2）。上物収量及び上物果率は、慣行区が最も優れ、次いで省力 b 区が優れた（表 2）。

以上の結果から、側枝の整芽を省略して摘心のみ行う方法（省力 b 区）は、品質はやや低下するが、収量は慣行法と同等で正常果 1 果得るために要する整芽・摘心と収穫の合計時間が慣行の 6 割に減少すると考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 主枝当たり側枝数は 10 本程度に制限し、栽培中に増加した場合はその都度摘除する。
2. 初期収量確保のために定植後 2～2.5 か月は 1 側枝 2 果どりとし、以後は 1 果どりとする。

[具体的データ]

表1 側枝管理法の違いが整芽・摘心および収穫時間に及ぼす影響

区名	側枝管理法			整芽・摘心 時間 (a)	収穫時間 (b)	(a + b) / 正常果個数
	整芽	摘心	収穫時残芽数			
省力a	無	無	1	時間/10a 0.0	時間/10a 422.6	秒/個 11.4
// b	無	有	1	230.9	391.9	16.1
// c	無	無	2	0.0	427.0	10.4
慣行	有	有	1	670.6	281.7	25.8

注) 穂木：千両2号、台木：トレロ、株間：75cm、V字4本仕立て、定植：4月15日、
収穫期間：5月21日～12月17日、省力各区は7月8日まで1側枝2果どりとし、
その後は1側枝1果どりとした。慣行区は全期間1側枝1果どりとした。

表2 側枝管理法の違いが収量および品質に及ぼす影響

区名	上物収量	正常果収量	上物果率	不良果率
	t / 10a	t / 10a	%	%
省力a	2.3	11.4	17.5	15.4
// b	3.5	12.2	24.8	10.3
// c	2.5	12.9	15.8	26.4
慣行	3.7	12.0	27.5	7.1

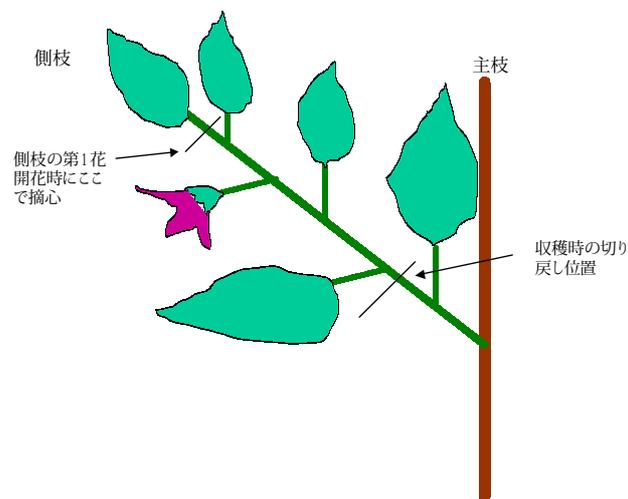


図1 省力b区の側枝管理法

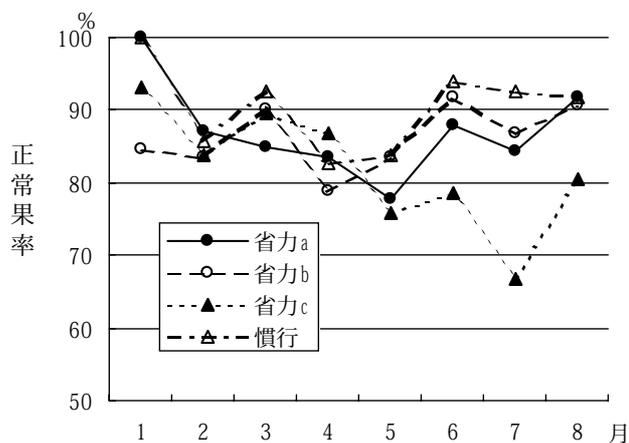


図2 正常果率の推移

[その他]

試験研究課題・事業名：中山間地域における野菜等の少量多品目生産技術

予算区分：国庫助成（地域基幹）

研究期間：平成9～13年度

関連情報等：なし

[具体的データ]

表1 側枝管理法の違いが整芽・摘心および収穫時間に及ぼす影響

区名	側枝管理法			整芽・摘心 時間 (a)	収穫時間 (b)	(a + b) / 正常果個数
	整芽	摘心	収穫時残芽数			
省力a	無	無	1	時間/10a 0.0	時間/10a 422.6	秒/個 11.4
// b	無	有	1	230.9	391.9	16.1
// c	無	無	2	0.0	427.0	10.4
慣行	有	有	1	670.6	281.7	25.8

注) 穂木：千両2号、台木：トレロ、株間：75cm、V字4本仕立て、定植：4月15日、
収穫期間：5月21日～12月17日、省力各区は7月8日まで1側枝2果どりとし、
その後は1側枝1果どりとした。慣行区は全期間1側枝1果どりとした。

表2 側枝管理法の違いが収量および品質に及ぼす影響

区名	上物収量	正常果収量	上物果率	不良果率
	t / 10a	t / 10a	%	%
省力a	2.3	11.4	17.5	15.4
// b	3.5	12.2	24.8	10.3
// c	2.5	12.9	15.8	26.4
慣行	3.7	12.0	27.5	7.1

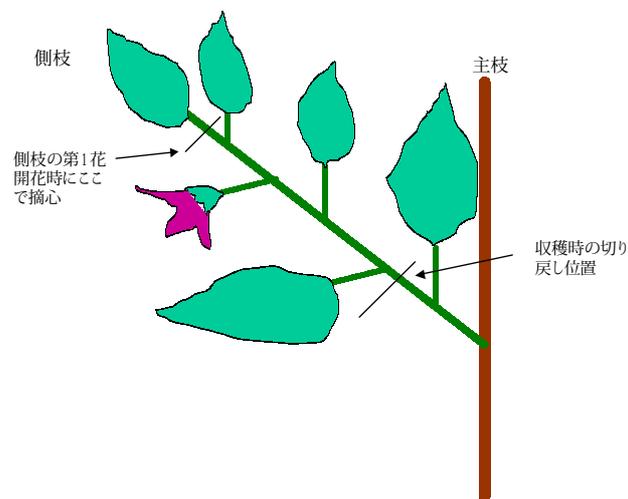


図1 省力b区の側枝管理法

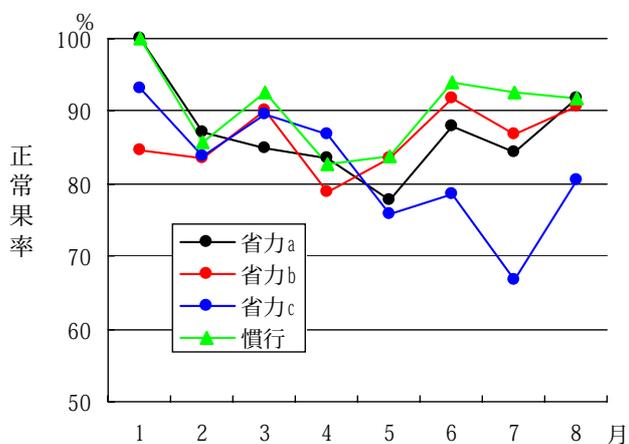


図2 正常果率の推移

[その他]

試験研究課題・事業名：中山間地域における野菜等の少量多品目生産技術

予算区分：国庫助成（地域基幹）

研究期間：平成9～13年度

関連情報等：なし